

〔古今要覽稿器財〕あ。げ。は。り。帷。幕。幄。

幕古事記、日本紀、三代實錄、令義解、延喜式、江家次第、倭名類聚鈔、體源抄、周禮、幕は康熙字典引釋名絡也といひ、和訓栞、まきは纏の義ならんといへり、いづれにも、はりまはしたる義なるべし、莫府など、ある莫は幕の字と通用にて、軍旅にては定りたるすま居なく、幕をはりて陣所となすを以て幕府と云、故に策を帷幕の中に決すなどの語あり、

〔古事記應中神〕爾大雀命聞其兄備兵、即遣使者令告宇遲能和紀郎子、故聞驚、以兵伏河邊、亦其山之上張繩垣立帷幕、詐以舍人為王、

〔古事記傳三十三〕帷幕は阿宜波理と訓べし、中略、繼體卷に、帷幕をキヌマクと訓、和名抄にも、幕和名加太比良とあれど、此は帷と幕と二には非ず、二字を連ねて一物に訓べきなり、つ、又斗婆れに帷幕とつゝきたる字なる故に、かくは書るのみなり、帷も字書に幕也と云注あり、又斗婆理とも訓べし、

〔日本書紀十體〕九年四月、物部連於帶沙江停住六日、伴跋興師往伐、逼脫衣裳、劫掠所賣、盡燒帷幕、

〔古今要覽稿器財〕あ。げ。は。り。帷。幕。幄。

あ。げ。は。り。は、古事記に帷幕の字をあて、和名鈔に幄の字をあつ、帷は豎幅なるもの、幕は横幅なるものなり、されども古書に帷幕と連ね用ゆるは、ひとへにまくといふことにて、この差別はなきなり、幄はやねのごとくはり設けたるものにて、長七丈、廣二丈四尺延喜式、などあれば帷幕に比すれば甚大なるものなり、

幕初見

〔日本書紀七景行〕四年二月甲子、天皇幸美濃、左右奏言之、茲國在佳人曰弟媛、中略、則請天皇曰、妾性不

欲交接之道、今不勝皇命之威、暫納帷幕之中、然意所不快、略、下

〔釋日本紀七秘訓〕帷幕之中ウミアラカノ

〔安齋隨筆後編十一〕一帷

幕製作